

[馬術部] 東都学生

団体総合で2位

学生賞典馬場馬術 個人は西山が優勝

東都学生馬術大会が、4月14日から16日までJRA馬事公苑で行われた。専大は団体で新人障害飛越競技・学生賞典馬場馬術の2部門で優勝、標準障害飛越競技・複合馬術で2位となり、総合で2位入賞を果たした。

個人では学生賞典馬場馬術競技で西山慶太主将(商4・玉野高)、複合馬術競技・馬場審査で渡邊脩(経済4・関東国際高)が優勝。標準障害飛越競技で西原郁人(経済3・札幌光星高)、新人障害飛越競技で黒沼尊之(経済1・自修館中等教育学校)が2位となった。



▲馬術部の柱—西山主将(撮影・荻野)

東都トーナメント 団体優勝 西山が最優秀選手に

また、東都トーナメント(4月14日=同会場)は団体で優勝、西山が最優秀選手に選ばれた。

富沢健悟監督は「新人たちは初めての大会でよく頑張った。各人馬とも高いポテンシャルを持っているので、ここで見つけた課題を克服したい」と語った。着実にレベルアップを重ね、おごることなく上を目指す姿勢は、今後の大きな飛躍を予感させてくれる。

(加藤 未希・文2)

[アメリカンフットボール] 春季交流戦開幕

初戦日大に惜敗

アメリカンフットボールの春季交流戦が始まった。初戦は4月30日、アミノバイタルフィールドで行われ日大に21-33の黒星スタートとなった。

前半は先制されたのをきっかけに、主導権を譲り、我慢の時間帯が続いた。しかし、丁寧な攻撃で本来のペースを取り戻して前半を終える。後半開始直後にリターンタッチダウンを決めて同点に追いつくと、勢いに乗ったグリーンマシーンにはインターセプトなどで日大を追い詰めたが、最後はキックで開いた点差が勝敗を分ける形となった。

(加藤 未希・文2)

[バドミントン] 関東大学リーグ春季リーグ戦

女子4位 井上が新人賞

関東大学バドミントン春季リーグ戦が4月16日から30日まで、日体大健志台キャンパス米本記念体育館で行われ、女子が2勝3敗で4位の成績を残した。個人では、1年次生ながら全試合に出場し、活躍した井上春奈(商1・埼玉栄高)が新人賞を受賞した。

昨秋5位の雪辱を果たすべく挑んだ春季リーグ戦。しかし、初戦からの3連敗が響いた。田中里実主将(商4・埼玉栄高)は「井上がよく貢献してくれた。他の部員も優秀賞をとれるよう、秋季リーグ戦で上位を目指し頑張っていきたい」と今後の抱負を語ってくれた。

(橋本 麻未・経済3)

[アーチェリー] 関東学生リーグ戦

男子Aブロック2位 個人成績で新人佐伯が1位

3月26日から4月23日まで、関東学生アーチェリーリーグ戦(Bブロック)が帝京大ほかで行われた。男子は、専大、早大、中大が3勝2敗の同率2位で並んだが、4月30日の順位決定戦で他大学を撃破し、準優勝。女子は小差の戦いを制し、3勝2敗で3位となった。この結果、男子は6月に行われる全日本学生王座決定戦への出場権を2年連続で獲得した。

ハイスコア2試合の平均で競う個人成績では、佐伯朋哉(経営1・大宮開成高)が1位に輝いた。第3戦から出場した佐伯は、悪天候の中でも高い集中力を発揮し、平均665・5点。1年次生ながら関東学生ナンバーワンの記録を残した。

昨年はブロック優勝を遂げた男子。連覇はならなかったが、期待のルーキーも加わり、今月の東日本大会での活躍を期待せずにはいられない。



▲個人成績ナンバーワンに輝いた佐伯(撮影・宮山)

(荻野 敦子・文2)

[水泳] 第82回日本選手権

女子100メートル自由形 岩崎健闘 4位入賞

4月20日から23日にかけて、東京辰巳国際水泳場で第82回日本選手権水泳競技大会が行われた。この選手権はパンパシフィック選手権やアジア競技大会の選考も兼ねた大きな大会。

その大舞台で、女子100メートル自由形の岩崎優(経営3・湘南工科大附高)が4位に入賞した。試合当日は「力を出すことだけを考えた」というが、1カ月前に腰を痛め、練習が満足にできず「今回の結果には納得していない。インカレでは優勝したい」と語る。あと一歩のところまでパンパシの出場権を逃がした悔しさを、インカレでは晴らしてくれるだろう。

(中西 俊介・ネット情報3)

[バスケットボール] 京王電鉄杯10大学フェスティバル ダンクコンテスト

横村が見事優勝

4月29日から5月5日まで、トヨタ府中スポーツセンターで京王電鉄杯10大学バスケットボールフェスティバルが行われた。専大は3勝6敗の8位だったが、最終日のダンクコンテストで横村府幸(経済3・正智深谷高)が見事優勝した。

勝ち星には恵まれなかったが、友利健哉主将(文4・中部工業高)を中心にアグレッシブなプレーを見せた。中原雄監督は「まだ課題だらけ。昨年に比べ高さが無いし、ディフェンス力もない。それらを補うため、相手にフリーでシュートさせず、徹底したスクリーンアウトでディフェンスリバウンドをカバーしていきたい。秋のリーグ戦までにチームの方向性をしっかり出したい」と話した。

5月6日から関東大学選手権が始まった(専大の初戦は17日)。今年も専大らしい魅力あるプレーで盛り上げてほしい。

(荻野 敦子・文2)

[アイスホッケー] 関東大学選手権

初戦快勝も8位

アイスホッケーの関東大学選手権が4月10日から29日まで、東伏見アイスアリーナで行われた。専大は、トーナメント初戦で青学大に10-2で快勝したが、続く準々決勝で早大に敗退。5～8位を決める順位決定戦でも連敗し、8位に終わった。

リーグ戦途中経過

(5月14日現在)

【準硬式野球部】

東都大学準硬式野球春季リーグ戦で6勝3敗・勝ち点2の2位と好位につけている。先発、抑えとフル回転で4勝を挙げている田中暁(経営1・鳴門工高)、今季途中から4番に座り、打率・353、8打点と好調の赤岩一憲主将(経済4・太田市立商高)の2人に注目してほしい。

【サッカー部】

関東大学サッカーリーグ戦(前期)で3分6敗の12位と、初の1部挑戦に苦しんでいる。しかし、5月7日の明大戦で中盤の要・池田末廣主将(商学部4年・清水商業高)が1得点、1アシストを挙げるなど、攻撃陣の調子は上向き。後期リーグ(9月開幕)で巻き返すためにも、残り2試合は内容が問われる。

専大玉名高校野球部

RKK旗争奪戦 初優勝を飾る

専修大学玉名高校(熊本県・久和基利校長)野球部が、第35回RKK旗争奪選抜高等学校野球大会(5月6～9日、藤崎台県営野球場)で初優勝を遂げた。

この大会は熊本県内の有力校8校によるトーナメント。決勝では春の県大会を制した熊本工高と対戦し、7-6で競り勝った。この結果、RKK招待高校野球大会に出場することとなり、5月21日、同球場で、今年のセンバツの覇者・横浜高(神奈川県)と対戦する。

昨夏は準決勝で熊本工高に敗れ、甲子園へのキップを逃した。しかし、今年こそは、夢の甲子園出場を果たしてほしい。

《部活拝見》

東洋伝拳法部

個と和を融合させ 全日本の頂点狙う

今回の「部活拝見」は、全日本選手権4度の優勝を誇る東洋伝拳法部を紹介する。2月26日に行われた国士館、國學院、中央など関東12大学による大学対抗戦を3勝(2KO)1敗で制し、富田美里(法2・新潟明訓高)が優秀選手に贈られる喜多川賞を受賞するなど、古豪復活を目指している。

東洋伝拳法とはムエタイを源流とするキックボクシングのことで「東洋に伝わる拳法」の意味を持つ。練習は第一体育館のボクシング場でシャドーボクシング、ミット打ち、サンドバッグ打ち、スパーリングといったメニューをこなす。一人ひとりの真剣なまなざしから、熱い気迫が伝わる。



▲東洋伝拳法部(後列右から3人目が長崎主将)

中心を担うのは「みんなの士気を高め、一つにまとめる」ことを心がける長崎正和主将(経営4・芝高)。「個人競技だが、みんなで同じ目標に向かって一つになれるのが魅力」と言う。近年のK-1人気で格闘技への関心は高まっているがこの種目は競技人口が少なく、部員のほとんどが初心者。しかし、取り組むうちにその魅力に引き込まれていくそうだ。マネージャーや女子部員の入部も歓迎しており、興味のある人はボクシング場を訪ねてほしい。

主要大会は春秋の全日本学生選手権、新人戦、大学対抗戦で「目標は“全日本”でチャンピオンになること」と長崎主将。6月11日に後樂園ホールで行われる春季全日本学生選手権には2人が出場予定。「観戦希望の方に部からチケットをプレゼントします」とのこと。応援に足を運び、生の臨場感を体感してもらいたい。

(宮山 友希・文3)